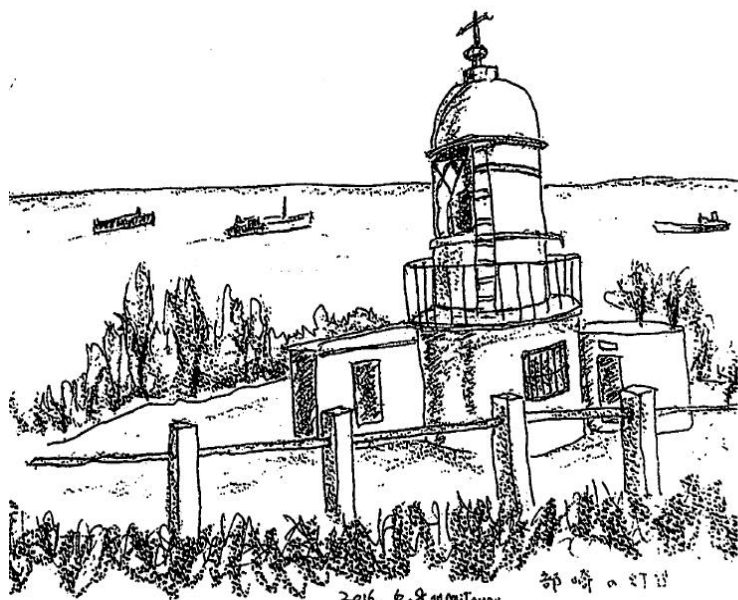


週報2020年9月27日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙 3 章 1 5 節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395 (FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2020年9月27(日)

前奏	力丸勝子 師
開会の祈り	山崎銀次郎 牧師
信仰告白	使徒信条
	標語聖句唱和「コロサイ書 3 章 15 節」
讃美	新聖歌 18 「おお御神をほめまつれ」
献身の祈り	山崎銀次郎 牧師
賛美	新聖歌 382 「心から願うのは」
聖書朗読	ルカによる福音書 10 章 25～37 節
説教題	「行って同じようにしなさい」
お祈り	御言葉の応答の祈り
祝福と派遣の祈り	山崎銀次郎 牧師
後奏	力丸勝子 師

交わりの三省

- * 互いに愛し合っていますか
- * 互いに赦し合っていますか
- * 互いに祈りあっていますか

説教要約

ルカによる福音書 10 章 25～37 節

I.緒論

「行って同じようにしなさい」

イエス様は御自分の弟子達に「ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい」(ルカ 10 章 20 節)と語っています。この言葉は「神から遣わされたイエス・キリストを受け入れる」と同じ意味です。しかし弟子達の喜びは「イエスの御名によって祈る時に悪魔が自分に服従した」という事です。つまり自分が権威ある者と勘違いしました。そしてこの出来事の後出てくる律法学者も同じ過ちを犯しています。自分は権威ある者として、うぬぼれていました。そこでイエス様はこの律法学者に対してこの例話、「良きサマリヤ人の話」をしました。この物語を通じて伝えたい事があったからです。

この例話のキーになる言葉は「あなたも行って同じようにしなさい」です。それはつまり「神から遣わされた私(イエス・キリスト)を受け入れて、私と歩みを共にしなさい」という事です。そうしたら永遠の命を受ける事が出来ると、イエス様は最初の律法学者の間に答えています。神から遣わされたイエス・キリストの歩みとは十字架の道です。イエス様はまさに、この例話の「良きサマリヤ人」です。傷ついた魂をもとの旅路(天国の道)に歩ませる為に、癒しを与え救いに導いたのです。イエス様の喜びは人々の名が天に記されていく事です。そしてそのためにご自分を極限まで低くされました。神の権威に服従したのです。イエス様はこの物語を通じて「出て行って同じようにする」ことを望まれています。

12 弟子も、律法学者も「抜きんでた者」になる為に自分の力を誇示し続けていました。そうすれば人々が自分に屈服すると考えたからです。これが権威に人が群がる理由です。人は自らが得た権威によって神さえ従わせようとする。ルカによる福音書は人間の本質に鋭く迫っています。そしてそれと同時にそのような世の中で、望み無く真の主人を求め、彷徨う魂がいる事に目を向けさせています。良きサマリヤ人の例話は読者に信仰の分岐点を投げかけています。神の権威に服従してキリストの愛を示すのか、自らの栄光を追い求めて生きるのか。

II.本論(証)

私が思春期の時に、自分の心を支配していた感情は「自分を馬鹿にしている人たちを見返してやりたい」でした。そしてそのために流行を追いかけて、ダイ

エットに励み、特技等を身に付けようとしていました。しかしどれも中途半端で上手くいかず、そんな自分にいつも、くよくよと落ち込んでいました。そうして認められる人間になりたいくて色々な事を追い求めた結果、8年ほど休まずに通った教会学校に行かなくなりました。

教会学校の先生方は教会のイベントがある毎に、私を誘ってくれました。しかし私の心は教会から離れていたのも何か理由をつけて、誘いを断っていました。しかしそのあまりのしつこさ、ではなく熱心さに感嘆の思いさえ抱くようになり、又教会学校に行くようになりました。そしてその中でイエス様が自分の事を本当に愛してくれている事がわかり、今までイエス様の愛から離れて生きていたことを悔い改めました。その時私は聖霊のバプテスマを受けました。

教会から離れていた時、先生方が何故あれだけ熱心に誘ってくれるのか、良くわかりませんでした。しかし聖霊を受けた時、それがわかりました。先生方の情熱の源は、「自分の事を見つけ出してくれたイエス様の愛に従って、失われた魂の救いの為に出て行きたい」でした。そして私の情熱の矛先もその時から変わりました。先生方と同じようにする。その思いが私の心を支配し、日曜学校の先生になりました。

III.結論

当時の律法学者達はユダヤ社会の中で、今で言うエリートです。律法を元にした厳格な掟をしっかりと守り、律法の教えに対して落ち度の無い者達でした。そんな彼らに対して、良きサマリヤ人の例話を通じてイエス様が問いかけている事は「あなたの心に憐れみがあるか？」でした。つまりイエス様は落ち度が無いという自尊心によって高慢になっている彼らに対して、律法が一番大切にしている事に気付かせたかったのです。

律法で一番大切な事は愛です。そしてこの愛には憐れみと慈しみが伴っています。神はその憐れみと慈しみの故に霊的に迷子になった魂を救われました。私達がこの神の言葉を追い求めて行く時に必ずこの神の愛と憐れみと慈しみに出会います。このイエス様の十字架の愛だけが唯一、人の心を改心へと導くのです。

つまり、私達に必要な事はどれだけ聖書の言葉を守っているか誇示する事ではありません。どれだけこの愛を人々に示しているかです。そしてそれは言い換えるとどれだけ神の慈しみと憐れみに触れたか、という事になります。私達の名はイエスの御名によって天に記されています。その喜びを知らない人の為に心を尽くす者と変えられて行きましょう。